

令和元年度がん教育推進校事業報告書（外部講師による講話）

学 校 名	北海道名寄高等学校
実施日時	令和元年11月15日（金） 15時05分～15時55分
場 所	名寄高校 体育館
講 師	（所属・職名・氏名） 名寄市立大学 保健福祉学部 看護学科 中澤洋子 氏
テ ー マ	がんを知って命や生活を考える
対象学年 または 対 象 者 （人数）	・1年次（99人） ・教員（12人） 合計 111 人
学習内容	<p>がんに関する講話内容は大別すると、（1）がん発生と進行の仕組み、（2）がん治療、（3）がん患者への支援の3点であった。</p> <p>（1）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子が不規則な生活習慣やウイルスの感染によって変異してしまうこと ・組織を破壊して血管を新たに作り栄養分を運ばせて増殖すること <p>（2）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各器官で発生するがんの5年生存率について ・早期に発見されたがんは、90%以上は完治すること ・治療方法のうち、薬物療法や放射線療法では生殖機能に影響を及ぼすこと <p>（3）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15～30歳代のAYA世代では、将来の不安が大きく特別な配慮を要すること ・インフォームドコンセントやQOLを考慮して治療の決定を行うことが重要 ・痛みや意志決定低下に備える包括ケアシステムによりサポート体制をとること
成 果 等	<p>講話の事前、事後に実施したアンケート結果で特に大きな変化が見られた項目について、以下にまとめた。</p> <p>（1）「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」 「そう思う」と回答した割合は57.3%から74.0%へと変化し、16.7%増加した。</p> <p>（2）「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」 「思わない」と回答した割合は25.0%から51.0%へと変化し、26.0%増加した。</p> <p>（3）「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」 「そう思う」と回答した割合は44.8%から64.6%へと変化し、19.8%増加した。</p> <p>以上の結果より、講話を通して生徒自らががんや健康に対して主体的に考え行動するような態度を育むことができたと考える。</p>